

病弱教育総論

単位数	履修方法	配当年次
2	R	3年以上



科目コード

FE4731

担当教員

鳴海 宏司

※2019年3月までに単位修得してください（新規履修登録不可）。

※2014年度までの入学者と、2015年度2・3年次編入学者・科目等履修生、2016年度4月生3年次編入学者のみが学習可能です。

※二種免許状など特別な履修をするのみが受講する科目です。通常の方は、「病弱者の心理、生理・病理」「病弱教育」の2科目を履修してください。

■科目の内容

学齢期にある子どもが病気になった場合、ごく普通に考えれば、まずは病気の治療が優先され、とりあえず学校を欠席して治療に専念し、回復・治癒したらまた登校するという形をとるでしょう。しかし、罹った病気が特に急激・重篤ではないけれども、長期間の治療を要する疾患だったとしたら、この子どもの学校生活はどうしたらいいでしょう。

たしかに、まずなによりも病気を治すことが大事です。でも、だからといって生活のすべてをそのことだけに費やし、学校を長期間欠席することになれば、学校生活で身につけるべき多くのことが滞ってしまいますし、なによりも生活の質（QOL）そのものが低下してしまい、この子どもの生涯を通してみると取り返しのつかないマイナスになることでしょう。

こうした状況を解消し、病気であっても生活の質の維持・向上を図ることは、子どもとその家族にとって共通した願いですし、そのためにこそ病弱教育があるのです。

ここでは、病弱教育の対象となる子どもとは具体的にはどのような子どもなのか、また、このような子どもたちが学んでいる特別支援学校や特別支援学級では、どのような教育が行われているのか、さらに、なによりも大事な医療と教育の連携はどのようになされているのか等について学習します。

■到達目標

- 1) 病弱教育の意義について説明できる。
- 2) 小児の慢性呼吸器疾患や慢性腎疾患等について、どのような病気であるか説明でき、学校生活で配慮しなければならないことを解説できる。
- 3) 小児の心の病気のいくつかについて、どのような病気であるか説明でき、学校生活で配慮しなければならないことを解説できる。

■教科書

全国特別支援学校病弱教育校長会編著、丹羽登監修『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた 病気の子どもガイドブック ー病弱教育における指導の進め方ー』ジヤース教育新社、2012年

■科目評価基準

科目修了試験100%

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	病弱・身体虚弱の概念	病弱の意味、身体虚弱の意味を概観し、近年、患者のQOLを重視する医療の流れに伴い、病気に対する理解が変わってきていることを理解する。 キーワード：生活規制、生活の自己管理 など	病弱教育対象児童生徒の病気の種類の推移を見ながら、近年の病弱教育の対象になる病気について考えてみましょう。
2	病気等の状態に応じた配慮事項① 白血病等悪性新生物	白血病や脳腫瘍がどのような病気でのような治療が行われるのか概説し、治療中の子どもを支えるための学校の役割を理解する。 キーワード：アイソレーター管理、心のケア など	治療に立ち向かう子どもの気持ちにより添うために必要なこととは何か、考えてみましょう。
3	病気等の状態に応じた配慮事項② 筋ジストロフィー	筋ジストロフィーとはどのような病気でのような治療が行われるのか概説し、治療中の子どもを支えるための学校の役割を理解する。 キーワード：デュシェンヌ型、機能障害 度 など	子ども一人一人に応じた適確な配慮のためには、その子の症状の変化や置かれている状況をしっかり把握していることが重要になります。
4	病気等の状態に応じた配慮事項③ 心身症	摂食障害や不登校が医療面からどのように把握され、どのような治療が行われるのか概説し、治療中の子どもを支えるための学校の役割を理解する。 キーワード：心理療法、多軸評価 など	目に見える症状だけが問題なのではないこと、それがわかり解きほぐせるようになるには、時間をかけたかかわりが必要だということを理解しておきましょう。
5	病気等の状態に応じた配慮事項④ 気管支喘息、アレルギー疾患	気管支喘息や食物アレルギーがどのような病気なのか概説し、自己管理の要点と、治療中の子どもを支えるための学校の役割を理解する。 キーワード：アレルゲン、P Fメーター、E I A、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)、アナフィラキシー、エピペン など	子ども自身と保護者が病気をどのように理解しているか確認しておくことと、学校としての組織的対応が必要なことを押さえておきましょう。
6	健康障害が知的発達に及ぼす影響	健康障害児には、様々な未学習、学習内容の未定着が起こりうることを理解し、その発見と基本的な対応について理解する。 キーワード：広義の学習空白、狭義の学習空白、晩期障害 など	病気のために、乳幼児期に獲得されるべき学習内容が獲得されないまま学齢期になった場合、どのような状態を示すか考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	健康障害における認知スタイル① 自己効力感	自己効力感とは何か、このことが、病気治療過程にある子どもにとってなぜ大事になるのか理解する。 キーワード：効力予測、効果的な闘病生活 など	自己効力感を育てるための方法としてどのようなことがあるのか考えてみましょう。
8	健康障害における認知スタイル② コントロール感	内的コントロール感、外的コントロール感について理解し、病気の治療過程にある子どもはどのようなコントロール下にあるか理解する。 キーワード：HLOC、セルフケア など	病状の改善が感じられないまま治療の期間が長くなっていくとき、子どもの不安がどうなっていくのか考えてみましょう。
9	健康障害における認知スタイル③ 学習性無気力	学習性無気力とは何か、病気の治療過程にある子どもが陥りかねない学習性無気力とはどのような状態なのか理解する。	M・セリグマンの学習性無気力に関する研究について調べておきましょう。また、学習性無気力、コントロール感、自己効力感との関連性についても考えてみましょう。
10	病弱教育の意義	教育は、病気自体を直すものではないが、病気の治療過程にある子どもの健康状態の回復や情緒の安定に有効に働くものであることを理解する。 キーワード：学習の遅れ、学習空白 など	病弱・身体虚弱の子どもたちの状態や生活環境などに応じた適切な教育とはどのようなものか考えてみましょう。
11	病気の子どもを取り巻く現状	我が国の病気の子どもの現状と、小・中学校及び高等学校段階における対応の実際 キーワード：障害者白書、学校保健統計調査、全国病類調査、小児慢性特定疾患治療研究事業 など	学齢期における病気の治療過程にある子どもの数の推移、全国病類調査等から現状を把握し、そのような子どもたちの学校教育の仕組みや制度について調べてみましょう。
12	教育課程の編成	児童生徒一人一人の病気の状態、発達段階等を的確に把握し、個に応じた指導を展開するための指導計画のあり方と、その実際について理解する。 キーワード：重複障害者等に関する教育課程の取扱い、各教科等を合わせた指導など	病弱を主とする特別支援学校の教育課程だけでなく、別の障害種の特別支援学校の教育課程にも目を通しておくといいでしょう。
13	指導に当たる際の基本 ①子どもの不安への対応	病気やそれに伴う入院等によって起きてくる、病気そのものに対する不安、学習を含めた生活への不安を知り、その対応について理解する。 キーワード：前籍校、主治医 など	病気のために入院・治療が必要になった子どもの、心理的な状態について考えてみましょう。
14	指導に当たる際の基本 ②心の病気への対応	近年増加の一途をたどっている心身症や精神疾患の子どもたちへの対応の基本について理解する。 キーワード：行動に表れるストレス、身体に表れるストレス など	子どものストレスの表れ方、心の読み解き方、特別扱いではない配慮等について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	指導に当たる際の基本 ③組織的な対応	適確な指導計画を立てたり、実際の指導を適切に行うために必要な様々な関係機関、専門機関との連携・協力について、その実際を理解する。 キーワード：医教連携、個別の教育支援計画、リスク管理、医療的ケア など	病弱教育の対象になる子どもの場合、特に重要になる医療と教育の連携について、具体的かつ効果的なあり方を考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	下に掲げた病名は、主として病弱を対象とする特別支援学校の児童生徒にみられる病気のいくつかで、2つの群に分けて掲げています。 この2つの群のそれぞれから1つずつ選び、その病気を治療中の子どもの、学校生活上で配慮すべきことについてまとめなさい。 1群（筋ジストロフィー、悪性新生物、腎臓病、気管支喘息、糖尿病） 2群（摂食障害、不登校、うつ病等の気分障害、緘黙）
2 単位め	長期にわたる病気治療が必要な児童生徒にとって、病弱教育を主とする特別支援学校が果たすべき役割とは何かについて、視点を5つ挙げ、それぞれについて具体的にのべなさい。

■アドバイス

近年の病弱を主とする特別支援学校に学ぶ児童生徒の疾患は、多様化してきています。また、医学の進歩とか社会のニーズの多様化に応じて、入院しながら治療をしなければならない期間が短くなってきています。

1 単位めも 2 単位めも、それぞれの課題に取り組むにあたり、病弱を主とする特別支援学校で学ぶ子どもの疾患が、この20年来、どのように変遷してきたか、また、それはどうしてなのかについても調べてください。このことから、病弱を主とする特別支援学校に求められる役割も少しずつ変遷してきたことがわかりますし、さらには、現在の果たすべき役割についてもよくわかります。

1 単位め アドバイス

ここをまとめるためには、教科書の第6章をよく読んでください。また、参考書にも目を通してください。病気を2つの群に分けて提示していますが、1群は、これまでの病弱を主とする特別支援学校に在籍する子どもに見られた一般的な病気です。もちろん現在でもこれらの病気で特別支援学校に在籍している子どもはおりますが、病気によっては、家庭からの通院治療で治療が目指せるものもあり、特別支援学校には珍しくなった病気もあります。2群は、心の病気といわれるもののいくつかですが、近年、病弱を主とする特別支援学校では、これら心のケアを必要とする子どもたちの在籍率が高くなってきています。したがって、最近の病弱を主とする特別支援学校に求められるものの一つに、こうした子どもたちへの専門性の高い指導力があります。

いずれにしても、ここで求めている答えは、その病気がどんな病気かということではなく、その病気の子どもが学校生活を送るとすれば、そのために学校や教師はどんな配慮をしなければならないのかということです。もちろん、そのためには、病理についての基礎的な知識・理解は必要ですが、病気自体が問題なのではなく、あくまでも病気の子どもの問題なのだということを忘れないでください。

まず、教科書全般によく目を通すことが大事です。そうすれば、病弱を主とする特別支援学校が、病弱養護学校といわれていた時代を含め、この20年来、どのような変遷をたどったか、よく理解できると思います。たしかに、対象とする子ども達の病類が変化してきたことは事実ですし、その中で、病気の子どもに何を伝え、何を身につけさせなければならないのか、ということについても変わってきています。また、一方、この20年来どころか、もっと以前から、いささかもゆるがずに果たしてきた役割もあります。

そういった役割を、大まかに5つにまとめてください。そうすることで、今、病弱を主とする特別支援学校に求められていることが何なのか、自ずと理解できます。

特に、教科書第8章第1節にしっかり目を通してください。ここには「就学指導資料（抄）」として「就学指導資料 第2章 障害の特性と就学指導」が載せられています。これを熟読すると、病弱教育が対象としてきた「病気の子ども」のここと、その子どもたちの「学びの場」についてよく知ることができますし、病弱教育が果たしてきた役割もよく見えてきます。

■科目修了試験 評価基準

教科書で述べられていることに基づいて出題しているのので、その範囲で解答されていれば、理解度（解答文章中の誤字・脱字、文章完成度を含む）に応じて60点～79点は獲得できます。参考図書や実践的な研修に基づいた知見が述べられている場合、内容に応じて加点します。

■参考図書

- 1) 横田雅史監修、全国病弱養護学校長会編『病弱教育Q&A PART III』ジヤース教育新社、2004年
- 2) 横田雅史、西間三馨監修、全国病弱養護学校長会編『病弱教育Q&A PART V』ジヤース教育新社、2003年
- 3) 筑波大学特別支援教育研究センター／前川久男 編『特別支援教育における障害の理解』教育出版 2006年
- 4) 小野/西牧/榊原編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房 2011年
- 5) 筑波大学特別支援教育研究センター／安藤隆男 編『特別支援教育の指導法』教育出版 2006年
- 6) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 一総則等編一』教育出版、2009年
- 7) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 一自立活動編一』海文堂出版、2009年
- 8) 横田雅史監修、全国病弱養護学校長会編『病弱教育Q&A PART I 病弱教育の道標』ジヤース教育新社、2001年
- 9) 全国特別支援学校病弱教育校長会発行『病気の子どもの理解のために』国立特別支援教育総合研究所、2010年
- 10) <http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html>

■履修登録上の注意

この科目を履修する方は、「病弱者の心理、生理・病理」「病弱教育」の2科目を履修することはできません。